

製品名: 切断型 MMP-15 (Y132) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09012**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	人間、猿
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	61kDa

抗原情報

遺伝子名	MMP15
別名	MMP15; Matrix metalloproteinase-15; MMP-15; Membrane-type matrix metalloproteinase 2; MT-MMP 2; MTMMP2; Membrane-type-2 matrix metalloproteinase; MT2-MMP; MT2MMP; SMCP-2
遺伝子 ID	4324.0
SwissProt ID	P51511
免疫原	抗血清はヒト MMP15 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 113-162

背景

この遺伝子は、ペプチダーゼ M10 ファミリーおよびマトリックスメタロプロテアーゼ (MMP) の膜型サブファミリーのメンバーをコードします。このファミリーのタンパク質は、胚発生、生殖、組織リモデリングなどの正常な生理学的プロセス、ならびに関節炎や転移などの疾患プロセスにおける細胞外マトリックスの分解に関与しています。このサブファミリーのメンバーは膜貫通ドメインを含むため、これらのタンパク質は分泌型ではなく細胞表面で発現していることが示唆されます。コードされているプレプロタンパク質はタンパク質分解によって処理され、成熟したプロテアーゼが生成されます。このタンパク質は癌の進行に関与している可能性があります。[RefSeq 提供、2016 年 1 月],cofactor:サブユニットあたり 1 個の亜鉛イオンを結合します。 ,cofactor:カルシウム。 ,domain:システインスイッチモチーフに存在する保存されたシステインが触媒亜鉛イオンと結合し、酵素を阻害します。活性化ペプチドの放出に伴い、亜鉛イオンからシステインが解離することで酵素が活性化される。 ,機能: 細胞外マトリックスの様々な成分を分解するエンドペプチダーゼ。プロセラチナーゼ A を活性化する可能性がある。 ,PTM: 前駆体はフーリンエンドペプチダーゼによって切断される。 ,類似性: ペプチダーゼ M10A ファミリーに属する。 ,類似性: 4 つのヘモペクシン様ドメインを含む。 ,組織特異性: 肝臓、胎盤、精巣、結腸、腸で優先的に合成されると考えられている。膵臓、腎臓、肺、心臓、骨格筋にも相当量が検出される。 ,

研究分野

血管新生

画像データ

